INTERVIEW

NPO 法人 NIWA教育相談室

丹羽 豊（にわ ゆたか）
代表

親が変わらない限り、不登校は解決していかない

不登校、中退生のための無料個別相談と学校教員向けのカウンセリングを行うNIWA教育相談室。現在、不登校に関する相談は年間で150件を超えるとのこと。保護者が最も求めているのは、子どもとの「日常の接し方」。そこで過去は振り返らず、「これからどうしていくのか」具体的な対応策を示すのがNIWA流です。不登校時期に大切な親子関係とはどんなものなのか、丹羽豊代表にお話をうかがいます。

焦らず、ゆとりある対話を

親はどうしても不安や焦りから「学校へ行きなさい」「将来が不安」と子どもを追い込みます。子どもが黙ると「どうするの？」と聞いてしまう。だけど、そこは言葉を呑み込んで「どうしたいの？」と話を聞き、それを応援してあげて欲しい。「どうせ俺は無理だ」とネガティブな発言をしたら、それは聞き流しておけばいい。むしろ「痩せたいから泳ぎに行きたい」など、ポジティブな発言をしたら積極的に関わってあげる。まずは、そうしたゆとりのある対応が望まれます。

例えば、1年間学校に行けない中3生がいました。その子はずっと「働く」と言っていました。でも、それが本音ではありません。僕はお母さんになるべく我慢させた。だけど、3月下旬になっても何も言い出さないと母親が訴えてきたので、初めて母親に「どうするつもり？」ではなく「どうしたいの？」と尋ねさせた。すると本人は高校へ行きたいと言いました。やはり、最終的には本人に決めさせないといけない。また、その際に通信制高校への進学を希望する子もいますが、学校によってはレポートもスクーリングも千差万別です。本当に自分が卒業できるシステムなのかまでちゃんと考えさせないといけません。そこで、僕からしくみの説明をするために親子を相談室へ呼びます。すると、10組中7組が来る。これは高い比率です。ここでわかるのは、親が思う以上に、子どもたちは自分の将来をきちんと考えているということです。

過去は振り返らない 今から親子がどうしていくか

不登校は「きっかけ」から始まります。だけど、例えばきっかけとなった先生が転勤になっても、その子は登校しません。もう通学する自信がないからです。ただ、その自信のなさの原因は、残念ながら子育てにある。しかし、これは子育てを「間違った」わけではなく、「自立に向かわせなかった」ことが背景にあります。何事も失敗させないようにと過干渉になっていなかったか、少々の辛い経験を乗り越えさせようとしていたか。今、親子関係が友達化していると言われますが、僕はむしろ恋人関係だと思っている。つまり、親が子を喜ばせようとしているんです。例えば、「冷蔵庫に牛乳がない」と子どもが言ってくる。普通、「自分で買ってきなさい」と言うのが中高生に対する子育て。だけど、今は買ってあげるどころか、先回りして牛乳を補充してしまう親が多い。

私たちが行うカウンセリングとは、「今から親子がどうしていくか」を共に考えることです。言い換えれば「親は自立を促す。子は自立に立ち向かう」、この関係をはっきり示していきます。そのため、心理テストなどで過去を振り返ったりはしません。それよりも具体的な対応策を持ち帰ってもらう。でも、問題はそれを親が受け入れるかです。ときには母親と3日おきに電話でケンカしたこともありました。彼女は「子どもが不憫だ」と言った。だけど、親としてやらなければいけないことがある。だからあえて僕は厳しく言いました。

親が変われなければ不登校は解決しません。当相談室へ来られる保護者のほとんどが、ここへ来る以前に別の相談機関を訪問している。NIWAでは無料相談を行っていますが、有料の相談室も多い。1回1万円以上のところもあり、高額な負担にもかかわらず「何も解決しなかった」と言う人もいます。だけど、それはその相談機関が悪いのではありません。でも、相談機関を訪れた親が一番困るのは「様子を見ましょう」や「見守ってあげてください」と言われること。そこで具体的にどうしていいかわからず悩み、親はまた別の相談機関を探し歩き続けるのです。だから、私たちは具体的に「こう接しなさい」「こう伝えなさい」と言っています。

親はどうしても子どもを変えようとする。不登校に関して言えば、小中学生にカウンセリングは必要ありません。カウンセラーに会わすのであれば「遊び的なもの」で充分。診療内科での診療もひとつの方法ですが、小中学生への投薬は良いとは思わない。充分なカウンセリングもなく薬だけを与える。「様子を見ましょう」という言葉はそこから生まれます。

▲イベントの1コマ。課外授業で生徒と渋路島に。

原点は「元気である」こと 今を受け止め、未来を示す子育て

「わが子に寄り添う」とは、「今を受け入れること」です。世間の常識と比べたら不登校はマイナスに見える。だけど、原点は子どもが「元気である」ことではないですか。不登校くらいで人生は変わらないし、止まらない。だけど多くの親は「止まった」と思う。そこから悪循環が生まれていきます。子どもには常に「明るい未来」がある。親はそれを伝えてあげて、そのうえで子どもの選択を聞いてあげることが大切です。

それから、もっと多くの人に巡り合いましょう。子どもが最初に巡り合う人は親です。ですから、親に恵まれていた方が良い。それはお金という意味ではなく、ちゃんと子どもを豊かに自立させられる親でいられるか。だけど親は子育てに悩んだり、挫折したりする。そこで、親も他人と巡り合って、改めて子どもを育てることに向き合う必要がある。そして、わからないことは遠慮せずに専門家に聞くことも必要なんです。

NPO法人 NIWA教育相談室 は こんなところ ▼

不登校に悩み苦しむ生徒・保護者と心の問題を抱える学校の先生のための相談室。『高校卒業をあきらめない！』を合言葉に、不登校生（中学）の高校進学、不登校・いじめ・留年などで高校中退や転校で悩む高校生の個別無料相談を積極的に行っています。生活改善の取り組み、生徒に合った通信制高校の情報を提供するなど、高校生活と高校卒業を全面的に支援しています。

※詳しい紹介は P89